

埋文にいがた

No. 60
2007. 10. 15

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

19年度発掘調査遺跡の紹介

延命寺遺跡 (上越市大字下野田字延命寺258-1ほか)

延命寺遺跡は高田平野のほぼ中央、飯田川左岸の沖積地に立地しています。一般国道253号上越三和道路建設に先立ち、平成18年5月から調査をしています。平成18年は5,320㎡、平成19年は3,924㎡を調査し、その結果、飛鳥時代(7世紀前葉～中葉)、奈良時代(8世紀前葉)の遺跡であることが判明しました。

平成18年の調査では、飛鳥時代の竪穴建物や「周溝をもつ建物」、平地建物、井戸などが見つかりました。「周溝をもつ建物」は、4基の柱穴の周囲に幅約40cmの小型の溝をめぐらせ、その外側に幅約1.5mの周溝を設ける構造です。建物内からは火鑽臼と火鑽杵がセットで出土しています。奈良時代の遺構では盛土を伴う掘立柱建物、井戸、耕作溝、土坑などが見つかりました。盛土を伴う建物は、地面に約30cmの土を盛り、整地してから柱穴を掘削しています。盛土は炭や焼け土を含む土を5～10cmの厚さで積み上げています。建物は梁行2間(5.4m)×桁行5間(9m)で、柱穴には柱材が残り、柱材にはオニグルミが多用されています。また柱穴からは銅製の鈴が出土しました。奈良時代の遺物では土器のほか、木製祭祀具や木簡、刀子、帯金具などが出土しました。木簡では天平8(736)年の年号の書かれた木簡(4号木簡)や暦の断片(7号木簡)、稲の貸付を示す木簡(3号木簡)などが確認できます(写真1)。3号木簡には「野田村」という村名の記述があります。遺跡周辺には「下野田」、「上野田」という集落があり、今からおよそ1,300年前の奈良時代にさかのぼる地名が現在まで残っていることがわかりました。また、祭祀具や木簡、刀子、帯金具などが出土したことから、官衙(古代の国や郡などの役所)との関係が想定されます。

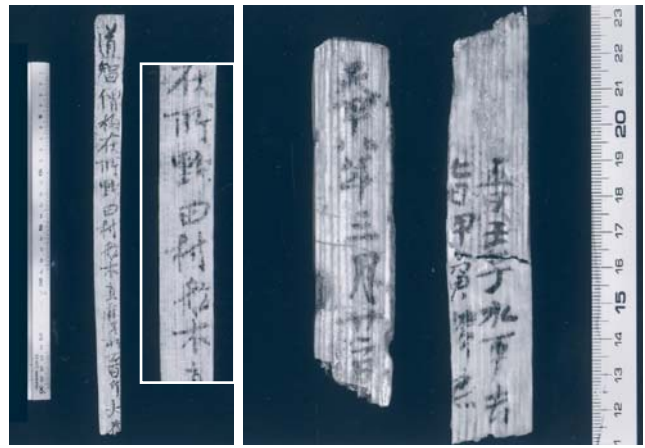


写真1 3・4・7号木簡(平成18年出土)

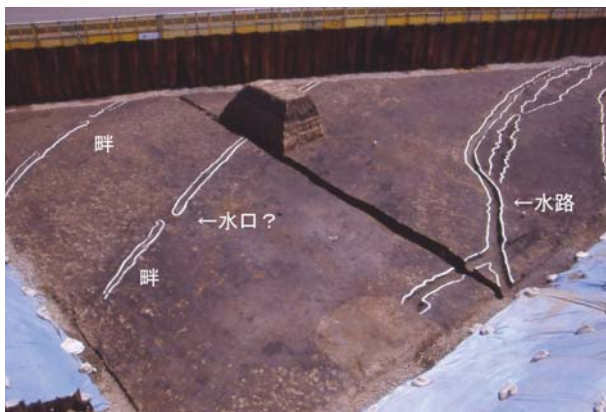


写真2 奈良時代の水田



写真3 盛土の上に建てられた建物